



長崎海岸での石ころ探し

市民の会からは4名が参加しました。最初に上田専門員の注意事項の後に白いビニールシートと1〜8の数字が書かれたカード8枚とバインダーが各自に配られました。その後、空地を出発し長崎海岸に降り、石の上にビニールシートを敷き、その上に1〜8の数字が書かれたカードを8枚置き各自が石ころ探しをしました。No.1のカードの上には砂岩、2には安山岩、3には縞々の砂岩、4にはノジュール、5にはチャート、6には人工石(セメント、瓦)、7には石炭、8には琥珀、を置きました。上

以前、大阪に行った際に「大阪梅田地下街の化石探検」という新聞記事があり、地下街に使われた大理石にアンモナイトなどの化石が見られるとのことであった。ゆつくりと化石見物ということで大阪の梅田地下街に出かけた。まずはJ.R大阪駅の中央コンコースに行き、柱がイタリアの北東部ベネクト州産のピンク色した大理石で「ペルリーノロザート」

『おまけ』 猛暑の夏の地下化石探検!

松家 英彦

田専門員がノジュールにサンプールをかけてカルシウムが泡状になって解けるのを実験で見せてくれました。最後に石を展示するため、の折り畳みの厚紙を渡され、子供たちは採取した石を大切に袋に入れ持ち帰りまし



写真①

らしい。そこには見事な渦巻き状のアンモナイトの化石が確認できた(写真①)。しかし、アンモナイトの細部の組織構造が融けたようになっており、これは、元々の石灰岩が熱や

圧力などの変成作用によるものではと思われた。次に大阪駅南側にあるデアモール地下街の壁の石材はドイツ、バイエルン州のゾルンホーフ産のベージュ色の板状石灰岩らしい。そこで確認できたアンモナイトの化石は、大阪駅のものとは異なり、細部の組織構造が明確に残っていた(写真②)。これは熱の変成作用を受けていなかったために融解が起っていないためと思われた。この化石はジュラ紀後期、1億



写真②

5千万年前のものらしい。なお、ゾルンホーフ産の同じ石切り場から鳥の祖先「始祖鳥」の化石が発掘されている。最後に大阪駅西側にある大阪ガーデンアベニューに行った。ここはベージュ色の石灰岩でヨーロッパで産出されたもので、柱や壁にはよく見るとアンモナイト化石があるわあるわ、ざつと数えて数十個のアンモナイトなどの化石を確認できた(写真③)。この石灰岩も変成作用を受けていないので細部の組織構造も確認することができた。また、イカの仲間である先端のよ

うな形をしたベレムナイトの化石も確認できた(写真④)。この他に海に暮らす有孔虫の一種、ヌンムリテス(貨幣石)もあるらしい。銚子では、以前に長崎海岸での恐竜化石探し隊で、アンモナイトの化石を採取したが、このように大量の化石を確認できたのは生まれて初めてで、いささか興奮!

なぜ、大阪梅田の地下街に大理石や石灰岩が多く使われているのか? これは、地下だと感じさせないよう、各事業者が競うように「質の高い空間」を作るといった、ゼいたく々な意匠を行ったためで、高度経済成長期やバブル時代の遺産らしい。

銚子に戻ってから、犬吠埼の園地にある犬吠埼口カ岬友好記念碑がポルトガル産の大理石で「ローズオーロラ」というピンク色をしており、ひよっとしたらアンモナイトの化石があるかもしれないと思い、現物を見に行ったが、残念



写真③



写真④

ながらアンモナイトの化石は見つからなかった。今年の夏は日本各所で酷暑を記録し、大阪市内も40℃近い気温になった。このような時は涼しい地下街で改めてゆつくりと化石見学をするのも良い。